

SPOT *Test*



アレルギー・ 植物・カビの解説

アレルギーについて

1. アレルギー反応とは

環境に存在し、通常は害のない物質（アレルゲン）に対して生体が引き起こす、過剰な免疫反応の1つです。アレルギーを持つ動物は、アレルゲンに対して抗体（以下 IgE）を産生します。

2. アレルゲンとは

花粉・カビ・ダニ・昆虫・食物など数多くの物質がアレルゲンとなります。

3. 増悪因子とは

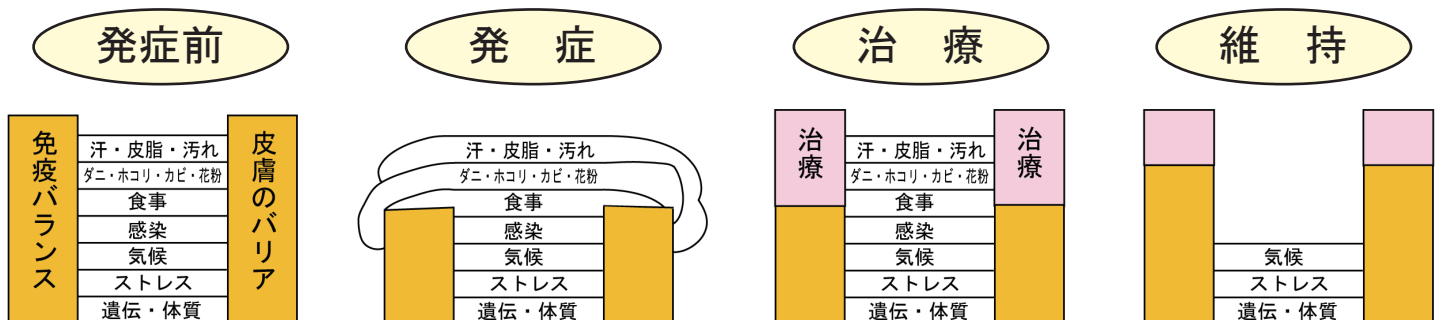
アレルゲンではありませんが、天候や大気汚染・居住環境・食生活・衛生状態・ストレスなどによって症状を悪化させる要因となるものです。

アレルゲンを調べる検査

1. スキンテスト：皮内にアレルゲンを注入し反応をみます。

2. 血液検査：SPOT TEST のように、血液中の IgE を測定します。

アレルギーの発症と治療のメカニズム



<IgE の量とアレルギー症状の相関>

SPOT TEST に代表される血液検査はアレルゲン特異的 IgE の有無を検出しております。アレルギー症状を呈する動物と無症状の動物を比較した場合、検出された IgE の数と症状には相関関係が必ずしも認められないこともあります。

それでは何の為の血液検査かということになりますが、「今、その動物の体がどのようなものを異物と認識して IgE を産生しているかを検査し、それに対処すること」を目的としております。また、アレルギーの発症には IgE の他に環境因子なども大きく関係していて、何が引き金となっているかなど未だその正確なメカニズムは解明されておりません。臨床的な判断を十分加味し対処していくことが大切です。

1997 年、ジュネーブで開かれた WHO（世界保健機関）の会議において、減感作療法（アレルゲン免疫療法）は「アレルギーの自然治癒を促す唯一の治療法」であり、「新たなアレルギーの発症を予防する予防的治療法」と位置づけられています。

★花粉に対する対策

- ①花粉の飛散が多くなる時間帯は気象条件や季節などに左右されます。花粉情報に注意してお出かけ下さい。
- ②シャンプーやブラッシングをこまめにして花粉を落とします。
- ③空気清浄器などで花粉を室内から排除します。

★カビに対する対策

- ①表にチェックした箇所を重点的に掃除します。
- ②湿度、換気に注意してください。(空気清浄器なども有効)

★フードに対する対策

SPOT TEST ではドッグフードまたはキャットフードに含まれることの多い食物を検査しています。食物に含まれるアレルゲンが体内に侵入すれば IgE が上がるので、数値が高いからと言って必ずしも症状を起こしているとは限りません。

現時点では食物アレルギーを確定診断できる検査は存在しません。

食物アレルギーは該当するフードを食べる前後での症状の違いなどで診断します。

検査結果はあくまでもフードを選ぶための参照としてください。

★イエダニに対する対策

- ①湿度を低くし、ダニの繁殖能力を下げます。
- ②ホコリの量を減らします。(掃除機の使い方に注意)
- ③ダニの死骸もアレルゲンになるため、燻煙などの殺虫剤だけでなく掃除機なども使用してください。

SPOT TEST に出てくるアレルゲンの解説

【室内】

カボック：別名パンヤとも呼ばれ、ぬいぐるみの中身に使われています。

羽毛混合：ガチョウ・ダック・ニワトリの羽毛を合わせたものです。

匂い蓆蒲・ジュート/サイザル麻：カーペットの素材として使われています。

ストレージマイト(貯蔵ダニ)：倉庫ダニとも呼ばれ、湿った食品やカビを食べて繁殖します。

ケナガコナダニとサヤアシニクダニ 2 種のアレルゲンを含みます。

【食物】

穀草：イネ科のソルガムと呼ばれる植物です。線維質とデンプン源になります。

ビール酵母：イースト菌（製パン用酵母）、発酵用乾燥酵母と同一のものです。

オートミール：オーツ麦、カラス麦、燕麦と同一のものです。

シーフードミックス(猫用)：タラ、ヒラメやカレイなどの白身魚とエビを含みます。

アレルギーの原因となる植物 花期(花粉期) 一覧表

※ 検査結果をもとに、表内の点線をなぞって色付けしてください。

名前			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
草	1	ギョウギンバ					-----	-----	-----	-----				
	2	ライムギ				-----	-----	-----	-----					
	3	ハルガヤ				-----	-----	-----	-----					
	4	オオアワガエリ				-----	-----	-----	-----	-----				
	5	セイバンモロコシ						-----	-----	-----	-----			
	6	カモガヤ				-----	-----	-----	-----					
	7	アシ								-----	-----	-----	-----	
	8	イチゴツナギ				-----	-----	-----	-----					
	9	クサヨシ				-----	-----	-----	-----					
	10	シラゲガヤ						-----	-----	-----				
雑草	11	ブタクサ							-----	-----	-----	-----	-----	
	12	セージ(ヨモギ)								-----	-----	-----	-----	
	13	ヘラオオバコ					-----	-----	-----	-----				
	14	アキノキリンソウ									-----	-----	-----	-----
	15	アザミ			-----	-----	-----	-----	-----	-----				
	16	アカザ				-----	-----	-----						
	17	ギンギシ				-----	-----	-----	-----	-----				
	18	ニワトコ			-----	-----								
	19	シロザ								-----	-----	-----	-----	
樹木	20	ビャクシン	-----										-----	-----
	21	ニホンスギ	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----					-----
	22	オリーブ				-----	-----	-----	-----					
	23	ブナ				-----	-----	-----						
	24	セイヨウトネリコ			-----	-----	-----	-----						
	25	ハンノキ	-----	-----	-----	-----								-----
	26	シラカバ		-----	-----	-----	-----	-----	-----					
	27	ヤナギ		-----	-----	-----								
	28	ニホンマツ				-----	-----	-----	-----					
	29	ヒノキ		-----	-----	-----	-----	-----						
	30	ネズミモチ			-----	-----	-----							
	31	オーク		-----	-----	-----	-----	-----	-----					
	32	クワ	-----	-----									-----	-----

名前	1 ***	2 ***	3 ***	4 **
	ギョウギシバ	ライムギ	ハルガヤ	オオアワガエリ
写真				
花期	6～8月	初夏 (花粉の飛散する時期)	5～7月 (花粉の飛散する時期)	5～8月 (花粉の飛散する時期)
生育場所	日当たりのよい道端や空き地、グラウンドなどに生える多年草。芝生や牧草としても栽培されるときもある。	夏季冷涼な気候に適し、主に北海道で栽培される。飼料用や園芸作物の風よけなどに、広く栽培されている。	牧草地、荒地、道端などに生える多年草。日本中に広く分布する。	牧草地、道端、空き地など全国に広く野生している。
特徴	茎は地表を這い、枝分かれしながら地表を覆う。節々から茎を立てる。葉は短い線形で先はとがり無毛、2列に互生する。アメリカでは牧草として栽培されている。最もアレルギー性の強い草の一つと考えられている。	ヨーロッパ原産だが世界中に広く分布する。花は初夏に咲き、その花粉が大量に放出される。カイバ(家畜の飼料)として重要視されている。	茎は直立して、高さ20～60cm。穂は長さ4～10cmで、穂が枝分かれせずに、1つの軸に花が密集してつくのが特徴。日本では牧草として栽培されるほか、全国に広く野生している。花粉の放出量が多く、花粉症の原因として重要。	世界に広く普及している牧草で、日本では栽培されているほか、帰化植物として全国に広く野生。茎の高さは50～100cmである。細長い円柱形の穂をつける。牧草としてチモシーの別名がある。

名前	5 ***	6 **	7 **	8 ***
	セイバンモロコシ	カモガヤ	アシ	イチゴツナギ
写真				
花期	7～9月	5～8月 (花粉の飛散する時期)	夏の終わりごろ～秋	5～7月
生育場所	河川敷、土手、道端、空き地などで大群落を形成することが多い丈夫な多年草。	牧草地、道端、空き地、畑の周辺、小川のふちなどに多くみられる。	川岸、沼地、湿地、道端などに生えている。	日当たりのよい道端、河原などに生える多年草。北海道から九州まで広く分布する。
特徴	茎は太く高さ1～1.8mにもなる。葉は幅の広い線形。長さ50～60cmになる。形はススキに似ているが、ふちがざらつкан。大型の穂をつけ、穂は紫褐色と黄褐色が混じって見える。家畜のえさとして栽培している地域もあるが、日本では害を及ぼす雑草とされることが多い。	草丈は80～100cm程度。全体に毛は無く、葉は互生し広い線形で柔らかい。葉鞘は筒状に茎を包んでいる。6～7月に緑色で円錐状の穂を出し、小穂は3～4個の小花から成っている。最も世界に普及している牧草で、日本では栽培されているほか、全国に広く野生している。	湿った土地に群がって生え、土の中にも茎がある。地上の茎は強く、秋には茎の頂に大きな穂を出して絹のような花を多数つける。高さは2～3mになり、非常に丈夫である。語呂が悪いので、「ヨシ」とも呼ばれる。	茎は細くてやや硬く、高さは50～70cmとなる。葉は幅約2mmと細く、表面はざらつく。細長い円錐状に多数の小穂をつける。小穂には3～6個の小花がつく。

名前	9 **	10 ***	11 **	12 **
	クサヨシ	シラゲガヤ	ブタクサ	セージ(ヨモギ)
写真				
花期	5・6月	7・8月	8～10月 (花粉の飛散する時期) (東北以北では8～9月、九州では9～10月)	9・10月
生育場所	九州以北の水辺、湿地に生育する多年草。小川や大河川の通常は流れの緩やかな場所に生える。	多年草で開けた森や野原、川岸、荒地でよくみられる。	全国各地の道端、荒地、空き地などに生育する。主に関東以西に多い。	北海道を除く全国の日当たりの良い道端、山野に広く群生する。
特徴	長い根茎を伸ばして群生する。葉は幅8～15mmで平たい。茎の先端にやや紫色を帯びた淡緑色で長さ10～17cmの円錐花序を出す。	高さ20～100cm。茎は全体に白く柔らかい毛が密生する。葉は線形で先が尖っている。小穂は偏平な楕円形白緑色、時に赤紫色を帯びる。帰化植物で、日本では牧草として栽培されているほか、野生化している。	葉は柔らかく、下部では対生、上部では互生し2回羽状に細く深く切れ込む。ヨモギの葉と間違いやすいがブタクサの方が深く細く裂けていて、表面には硬い毛があつてざらつく。欧米ではもっとも重要な花粉症の原因植物とされる。抗原性はきわめて強い。茎の高さは30～150cmである。	群生して地下茎で増殖する。茎はよく枝分かれする。葉は菊の花に似ていて互生、形は楕円で羽状に深裂している。葉の裏は毛でおおわれ、灰白色をしている。高さ50cm～1m。繁殖力が非常に強い。薬草のほか、草もちの材料としても有名。

名前	13 **	14 **	15 **	16 **
	ヘラオオバコ	アキノキリンソウ	アザミ	アカザ
写真				
花期	6～8月	10～11月 (花粉の飛散する時期)	春～夏	秋
生育場所	全国の道端、山野、荒地に生育する1年草の帰化植物。特に北海道に多い。	空き地、河川敷などに生える多年草。最近では都市から離れた地域に多くなっている。	全国の山野、道端や荒地に自生する。	日本全国の荒地、草原、畑などに普通に見られる。
特徴	葉はへら形で細長く長さ10～30cm、幅は1.5～3cm。葉の間から花茎を20～70cm伸ばし小さな花を穂状につける。高さ20～70cm。世界各地の温帯地域で、厄介な花粉症雑草と考えられている。	茎は高さ2～3mにもなる。葉は互生し、ごく短くふちに浅い鋸歯がある形。茎の先に円錐形の大きな花穂をつけ、多数の黄色の花をつける。秋になると各地の空き地、河川敷を黄色く染める風物詩の一つとなっている。セイタカアワダチソウともよばれる。	葉にトゲがあり、草丈は60～80cm程度になる。径4～5cmの頭花を咲かせるキク科の多年草。春に花をつけるノアザミ、初夏にかけて花をつけるキツネアザミなど様々な種類がある。写真はノアザミのもの。	高さ1m弱。秋に目立たない花を咲かせる。幼植物の時に成長点近くの葉が赤紫色であることがシロザと異なる。食用されていたものが野生化した。

名前	17 **	18 **	19 **	20 **
	ギンギン	ニワトコ	シロザ	ビャクシン
写真				
花期	初夏から夏	春	晩夏～秋	12・1月
生育場所	道端、空き地、堤防の斜面、田畑のあぜ道などに生育する多年草。	本州、四国、九州、奄美大島、山野に広く分布。	日本全国の畑や道端、荒地などに生える一年草。	本州中部～九州までの渓谷や山峡、断崖など岩の多い土壌や海岸に近い場所で多く見られる。
特徴	茎は直立し、葉は長楕円形でふちは大きく波立つ。茎の上部に穂状の淡緑色の花を輪状につけ小さな葉がつく。高さ40cm～100cm。繁殖力がつよく、取り除くには苦労を要する。	山野に普通に生え、高さ3～5mになる落葉大低木。枝が放物線を描くように弓なりになるのが特徴。その独特の樹形と泡立つような花が春の山野でよく目立つ。髄は植物実験に試用され、薬品などにも用いられるなど、比較的名度の高い草。	茎は高さ0.6～1.5m。若い頃出る葉は三角形に近く、粗い鋸歯があり、後の葉は細くなっている。若葉は両面、成葉は葉裏が白い粉に覆われる。アカザの母種で、高さ60～150cm。広く分布し、害草としても名高い。	たくさんの枝状の幹をもった大木または小木。常緑で葉に芳香がある。別名イブキ。高さ約15m。庭園樹や彫刻用にも用いられる。

名前	21 **	22 **	23 **	24 ***
	ニホンスギ	オリーブ	ブナ	セイヨウトネリコ
写真	 			
花期	1～5月 (花粉の飛散する時期)	5～6月 (花粉の飛散する時期)	5月頃	4・5月
生育場所	北海道函館から鹿児島県屋久島まで。	本州、四国、九州など。主に農家で栽培されている。	北海道中部以南、本州、四国、九州の肥沃な山地に生える。	本州中部以北の山地。
特徴	幹がまっすぐに立ち、高木に成長する常緑樹。森に生育し、強風の当たらない場所で豊かな深い土壌に生える。日本で最も有名なアレルゲンのひとつ。樹高は約45m。径は約2m。	常緑高木。葉は厚く裏側が白い。果実は薬用・食用とされる。樹高は約7～10mである。	落葉高木。幹は直立してそびえる。成長すると高さ30m、直径1.7mにもなる。5月頃淡緑色の花を開く。	花序に花冠のない小さな花をつける。果実は長さ3～4cmで翼がある。落葉高木で高さは約15m。

名前	25 *	26 *	27 **	28 **
	ハンノキ	シラカバ	ヤナギ	ニホンマツ
写真				
花期	1～3月 (花粉の飛散する時期)	3～6月 (花粉の飛散する時期) (北海道では4～6月、関東の内陸部では4・5月)	早春	4月下旬～6月 (花粉の飛散する時期)
生育場所	林野の湿地に生え、田のあぜなどに植えられている。九州から北海道まで日本各地に分布している。	本州中部以北・北海道の低山地。日当たりの良い適当な湿り気のある場所。	森、川岸や雑木林、生垣にもしばしばみられる。	北海道南部から九州の山野や丘陵に自生。やせ地や酸性土壌にも生える。
特徴	2月頃、葉に先立って暗紫褐色の単性花をつけた後、松かさ状の小果実を結ぶ。落葉の低木あるいは高木。樹高は約15m。	葉は三角状広卵形で秋には黄葉する。樹皮は白色に近く横に剥げる。北半球の温帯から寒帯にかけて分布する落葉高木～低木。樹高は約20m、径は約0.6mである。	落葉灌木で高さは3～10m。	常緑針葉樹。樹高は約30m、径は約1.5mである。針のように細い葉を持ち、1年中緑色をしている。

名前	29 **	30 **	31 ***	32 **
	ヒノキ	ネズミモチ	オーク(コナラ)	クワ
写真				
花期	3～5月	春	北部では5・6月 中部以南では3～5月 (花粉の飛散する時期)	12・1月
生育場所	本州岩手県以南、四国・九州。	本州中南部・四国・九州・沖縄ほか。庭園中や生垣、道路の中央分離帯に植栽される。	沖縄県を除く全国の日当たりのよい山野に自生、植林されている。	本州・四国・九州の山野や堤防に自生する。養蚕に葉を用いるため畑で栽培される。
特徴	常緑針葉樹。樹高は30～40m、径は0.5m～1.5m。樹幹は直立する。樹皮は赤褐色。葉は鱗状で交互対生し、葉の表面は濃緑色である。	樹高5mほどになる常緑小高木。葉は厚くて楕円形、鋸歯がない。初夏に白色の花がたくさん付き、楕円形・紫黒色の果実を付ける。	オークはブナ科コナラ属の総称。落葉高木で、高さは約15m。コナラはクヌギとともに、雑木林を構成する代表的樹種。葉は逆さ卵形で荒い鋸歯がある。	葉には切れ込みの深いものとは違う種類がある。春には、淡黄緑色の単性花を穂条に綴り、その後イチゴのような実を結ぶ。

交差反応アレルゲン類 一覧

	アレルゲン	交差性を示すもの					
草	ギョウギシバ	セントオーガステイングラス					
	スズメノチャヒキ属の植物	オオムギ	ライムギ				
	セイバンモロコシ	コーン	穀草	サトウキビ			
雑草	オナモミ	メロン	スイカ	ラテックス	セロリ	ヒマワリ	バナナ
	タンポポ	ヒマワリ	レタス				
	ギシギシ	ギシギシ属					
	セイヨウオオバコ	オオバコ	メロン				
	セイタカアワダチソウ	バッカリス	ヒマワリ				
	ニワトコ	セロリ バナナ	ヒマワリ ラテックス	メロン	スイカ		
	ブタクサ	ヒマワリ ラテックス リンゴ *	メロン レタス ズッキーニ *	スイカ タンポポ 糖蜜 *	セロリ トマト カモミール茶葉 *	バナナ セイタカアワダチソウ	キュウリ
	ヨモギ (sage brush)	ニンジン キウイ *	セロリ メロン *	ウイキョウ コショウ *	カバノキ パセリ *	リンゴ スイカ *	ヒマワリの種 * ピーナッツ *
樹木	カバノキ(シラカバ)	リンゴ	セロリ	ニンジン	ジャガイモ	トマト	アーモンド
		クリノキ	ブナ	トネリコ	キウイ	アンス *	ヘーゼルナッツ *
		ソバ *	蜂蜜 *	パセリ *	コショウ *	プラム *	サクランボ *
		プルーン *	ピーナッツ *	ハウレンソウ *			
	カエデ (北米原産)	メープル					
	ニレ	ニレ属					
	ハシバミ	クリノキ	ブナ	リンゴ	アーモンド		
	ビャクシン	スギ					
	スギ *	トマト					
	オーク	クリノキ	ブナ				
	オリーブ	ライラック	サフラン				
トウヒ (エゾマツ含む)	モミノキ	マツ					
スズカケノキ (米)	ブラタナス属						
オオカエデ (英)							
ハンノキ *	アーモンド パセリ	リンゴ 洋梨	セロリ 桃	サクランボ	ヘーゼルナッツ		
食物	牛肉	牛乳 兎肉	牛上皮 鶏肉	羊肉	豚肉	馬肉	
	鶏肉	七面鳥	ウズラ	鶏卵	ウズラの卵		
	ミルク	チーズ	乳漿	山羊乳			
	マメ	ピーナッツ	インゲンマメ				
	コーン	サトウキビ	セイバンモロコシ				
	七面鳥	鶏肉					
	穀草 (ソルガム)	コーン	サトウキビ	セイバンモロコシ			
	オートミール (カラスムギ)	ソバ					
	ポテト	ピーマン	ナス	フトモモ科の木 (実)			
	マグロ	サケ	オヒョウ				
	タラ	タラ科	ウナギ	サバ			
	ニンジン	セロリ キウイ	ウイキョウ	パセリ	キュウリ	スイカ	リンゴ
	エンドウマメ	ピーナッツ	大豆	インゲンマメ			

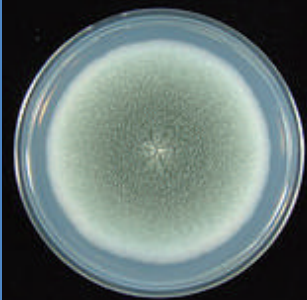
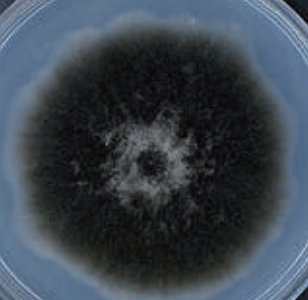
*: サンダース ペテリナリークリニクスシリーズ Vol.2 No.1『犬と猫の最新・皮膚科学』株式会社インターズ一刊より引用
**: Allergy 50: 918-924 (1995)より引用

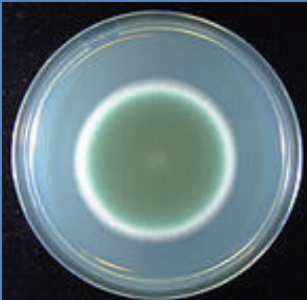
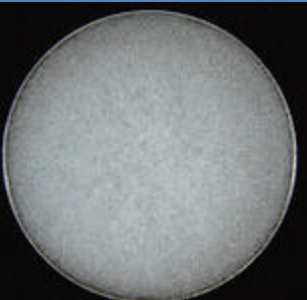
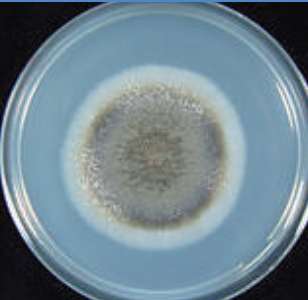
アレルギーの大きな原因となるカビ・真菌

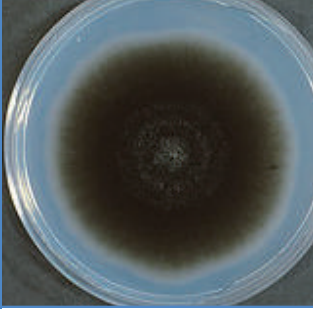
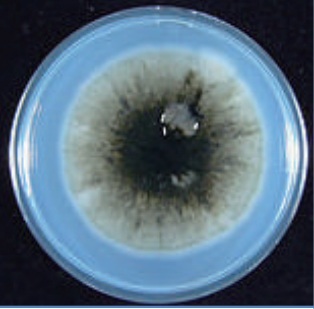
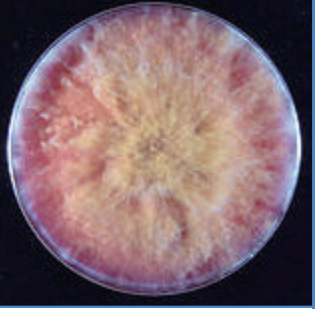
※検査結果表をもとに、表内の○を色付けして、チェックした箇所を重点的におそうじしてください。

加計相談センター所長 高島 浩介先生監修

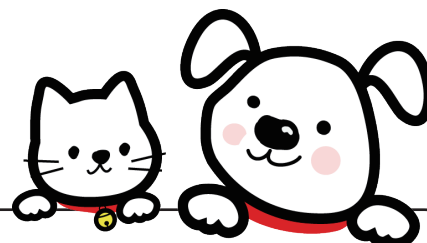
		住居周り						住居環境内										住居環境外						動物や人の生体	
		塗料	排水溝	地下室	窓枠	浴室	台所	エアコンフィルター	タタミ	ジュタン	衣類	綿	ハウスダスト	冷蔵庫	穀類	食品	空気中	土壌	枯れた植物	植物	堆肥	草	鳥の糞	表皮	粘膜
33	アスペルギルス							○	○	○	○	○			○	○	○	○		○	○		○		
34	アルタナリア	○	○	○	○					○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			
35	ドレクスレラ			○									○		○	○	○	○	○						
36	クラドスポリウム	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	
37	ペニシリウム			○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			○	
38	リゾプス		○	○			○				○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			
39	ステムフィリウム	○	○							○					○			○	○	○	○	○			
40	カンジダ・アルビカンス					○									○			○	○				○	○	○
41	カーブラリア	○	○								○					○		○	○						
42	オーレオバシディウム	○	○	○	○	○	○					○	○		○	○	○	○	○	○					
43	フザリウム		○				○				○		○		○	○	○	○	○	○					

名前	33 ****	34 ****	35 ****	36 ****
	アスペルギルス	アルタナリア	ドレクスレラ	クラドスポリウム
写真				
生育条件	12～57℃	6～32℃	—	35℃以下
至適温度	37～43℃	25～26℃	20～30℃	18～28℃
生育場所	土壌に広く分布。ほか、がらくたの山、松林、タマネギ、米、腐った植物、鳥の排泄物、堆肥など。	多くの植物、土壌、腐った木、堆肥、食品など。	オート麦、トウモロコシ、草、サトウキビ、土壌、繊維など。	空気中、土壌中、湿った窓枠、換気の悪い家屋、藁葺き屋根の家など。
特徴	熱に強い真菌で、世界的に広く分布。増殖に適した温帯域は広いが、一年の中で最も寒い数ヶ月間に発症することが多い。もっとも重要なカビアレルギーのの一つ。	窓枠に密に見出される。戸外のカビと考えられており、温暖になると現れる。	寄生カビとして最もよく知られる。季節的な発生がみられ、胞子は暑く乾燥した日に放出される。人のアレルギー性呼吸器病の22～32%で陽性が出たという報告がある。	空気中で最も高頻度に出会うカビ。胞子は容易に空気中を運ばれ、時として海を越えていく。胞子は大気中に5月頃より現れ、7～10月のいずれかにピークを迎える。重要なカビアレルギーで、学術名はクラドスポリウムとして統一された。

名前	37 ****	38 ****	39 ****	40 ****
	ペニシリウム	リゾプス	ステムフィリウム	カンジダ・アルビカンズ
写真				
生育条件	5～約36℃	4.5～33℃	20～30℃	—
至適温度	23℃	25～26℃	22～25℃	—
生育場所	湿帯の森林、牧草地、頻繁に耕作が繰り返される土壌。また、胞子は容易に空気中に拡散される。	森林、耕作された土壌、砂箱。他に動物の寝藁、排泄物など。	森林、牧草地、小麦畑、汚水、木々の朽ちた葉など。	生体の常在真菌である酵母で、土壌中にも多い。
特徴	ペニシリン産生能をもつ土壌カビ。四季を通じてさほど大きな量的変化はないが、強いて言えば冬と春に多いと考えられている。抗生物質のペニシリンと交差反応が確認されているので陽性個体へのβラクタム系抗菌剤の使用には注意が必要。	ケカビ目の中でも最もポピュラーなもの。暖かい地方、特に乾燥地帯により多く発生。しばしばカビアレルギーとしてリストに出てくる。	世界中に広く認められているが、温帯から亜熱帯地方によくみられる。アルテルナリアと共に重要なカビアレルギー。	空気中ではほとんどみることができない。消化管に多いため、カンジダ症を引き起こす。I、III型の皮膚反応が、人の慢性蕁麻疹患者の36%で陽性だったという報告がある。

名前	41 ****	42 ****	43 ****
	カーブラリア	オーレオバシディウム	フザリウム
写真			
生育条件	—	20～35℃	—
至適温度	24～30℃	25℃	20～30℃
生育場所	綿、米、大麦、小麦、鳥類など。	浴室、トイレ、台所の結露部分、水滴のでやすい内壁など。	果実、野菜、土壌、植物の残骸。
特徴	熱帯諸国の、主として単子葉の宿主植物から採取されるが、欧米でも見られる。人ではアレルギー性気管支肺疾患が報告されている。	酵母のようだが、形態上はカビである。水系環境に多く、低温で長期に生き残る。逆に、乾燥に弱い。起アレルギー性も高く、オーレオバシディウムといわれている。	世界的に優勢を誇る、牧草や他の植物に広く見出されるカビの一種である。冬や乾燥した時期には、土壌中や植物の残骸の中で優勢種として生き延びる。

出典一覧	A・・・参天製薬
	* http://www.santen.co.jp/index.html
	B・・・群馬大学ボタニカル
	** http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/BotanicalGarden/
	C・・・SPECTRUM LABS, INC.
	*** http://www.vetallergy.com/
	D・・・NPO法人 カビ相談センター 所長 高鳥 浩介先生のご厚意による
	**** http://www.kabisoudan.com/index.html



SPOT TEST に関するその他の情報は
弊社 Web ページからもご覧いただけます。
詳しくは QR コードを読み込んでください。
本冊子もダウンロードできます。

